

研究の成果と課題

今年度は、子どもの学びの質を高める教育課程について焦点を当て、「子どもと向き合う時間を確保し、学びの質を向上させていく教育課程の在り方」を研究主題に取組を進めてきた。「学校と子どもの実態に即したカリキュラム・マネジメントの実践的研究を通して」の副主題のもと、主に日課時程について検討を重ね、2学期を通して午前5時間制日課の実践を行った。また、一部教科担任制の実施や「業務改善実例集」の作成・共有を行った。

それらの研究の成果と課題は次のとおりである。

【成果】

(1) 午前5時間制について

昨年度の2度の午前5時間制の試行をもとに、本校ではどのような日課時程がふさわしいのか今年度の実態に合わせて検討することができた。午前5時間制日課を実施し、昨年度までに明らかになっていた①時間時数の確保、②生活習慣の確立、③児童・教員にとってのゆとりの時間の創出に加え、新たに④「たまなび」の時間の有効活用という成果が確認された。

また、児童からのアンケートでは、9割近くの児童が午前5時間制日課に対して前向きな回答をし、昨年度よりも更に高い数値となっている。

(2) 業務改善について

中・高学年を中心に、一部教科担任制を行った。学年3、4クラスある中で、様々な学級の児童の実態や雰囲気を知ることができ、学年の指導の際にも役に立った。また、担当する教科が少なくなることで効率化が図られ、1つの教科に対してより深く教材研究をすることができるようになった。さらに、一人の教員が同じ授業を積み重ねることで指導方法の改善ができ、教師の指導力向上にもつながるのではないかと考えられる。指導や評価の一貫性という観点からも、有効であることが明らかになった。

今年度は職員朝礼を廃止し、終礼のみとしたことで、朝の時間を児童のために有効に使えたり、授業準備の時間が十分にとれたり時間を有効に活用することができた。業務改善実例集を作成・共有することで、業務時間の短縮化や児童の指導の効率化を図った。

【課題】

(1) 午前5時間制について

今年度は2学期で午前5時間制を実施したため、年間の教育課程を通してでも午前5時間制の日課で児童がよりよく学んでいけることができるのか明らかにするため、今後さらに実践を続けていく必要がある。

また、中休みが短く、昼休みが長い日課であるため、熱中症や感染症対策で校庭や図書館が使えない時期に児童は教室でのみ過ごすこととなった。そういった場合での教室の過ごし方を検討し、改善していくことで児童が楽しく安全に休み時間を過ごすことができるのではないかと考えられる。

(2) 業務改善について

今年度は感染症対策をしながらの業務であったので、職員朝礼の廃止以外は具体的に業務改善の取組を推し進めることができなかった。今後はさらに業務時間の短縮や業務の効率化に向けて、新たな実践を行い、より働きやすい環境を学校全体で追究していく必要があると考えられる。